

## 豊田市美術館 新収蔵作品について

作品概要等	
作品概要	<p>作家名／ゲルハルト・リヒター</p> <p>作品名／8枚のガラス 制作年／2012年</p> <p>サイズ／幅 350cm×奥行 160cm×高さ 230cm</p> <p>購入価格／299,200,000円（税込み）</p>
作家説明	<p>1932年、ドイツ東部、ドレスデンに生まれる。ベルリンの壁が作られる直前、1961年に西ドイツへ移住し、デュッセルドルフ芸術アカデミーで学ぶ。コンラート・フィッシャーやジグマー・ポルケらと「資本主義リアリズム」と呼ばれる運動を展開し、そのなかで写真をそのまま絵画に描き写す「フォト・ペインティング」やカラー・チャートを描いた作品で徐々にその名が知られるようになる。</p> <p>その後、イメージの成立条件を問い直すとともに、第二次世界大戦における自国の過去を扱った作品などを通じて、ドイツ国内のみならず、世界的な評価を得る。ポンピドゥー・センター（パリ、1977年）、テート・ギャラリー（ロンドン、1991年）、ニューヨーク近代美術館（2002年）、テート・モダン（ロンドン、2011年）、メトロポリタン美術館（ニューヨーク、2020年）など、世界の名だたる美術館で個展を開催。現代で最も重要な画家としての地位を不動のものとしている。日本では2022-23年に東京国立近代美術館および豊田市美術館にて個展を開催し、当館では海外の現代作家の個展としては異例の47,000人余の集客を得た。</p>
見どころ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本作品は、リヒターが1960年代から継続しているガラス作品シリーズの1点。ガラスは、リヒターが活動の最初期より、イメージを映し出す原型を示す物質として用いてきた。</li> <li>・自立型の作品は10点ほどで、いずれも世界の主要な美術館が所蔵している。本作品は、反射率の高いガラスが角度を変えて並んでいる点が他のガラス作品と比べて特徴的な1点である。</li> <li>・周囲の景色や作品がガラスに映り込み、独特の視覚効果を生み出し、美術の専門的な知識がなくとも、視覚的に楽しむことができる。</li> <li>・ガラスと鉄の組み合わせには工業製品のようなたたずまいがあり、豊田市美術館の建築とも親和性が高い。</li> </ul>



ゲルハルト・リヒター 《8枚のガラス》  
2012年 ©Gerhard Richter, 2026  
※新収蔵作品は手前のガラス作品です